

古河電工「らくらくアルミケーブル」

官公庁案件で初採用

古河電気工業と古河電工産業電線が開発・製造し、SFC C（川崎市、黒須光明社長）が4月から販売を担当する高機能型低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」が、官公庁案件の電源供給用設備に初めて採用された。アルミ導体ケーブルは、JCS（日本電線工業会規格）で規定しているものの、JIS（日本産業規格）の認証は受けていない。JIS製品を広く活用する官公庁調達の中で、アルミ導体ケーブルが従来の銅導体ケーブルと同等の品質であることが古河電工が説明。その結果、発注者が同等であると判断し、採用に至った。

らくらくアルミケーブルを採用した官公庁案件は、曲がりの多いルートでの延線にもかわららず、延線作業が作業

予定時間の3分の2で終了するなど作業効率を向上、建設現場の働き方改革に貢献した。

ことし3月に施工した栗駒電気工事（東京都足立区）からは「らくらくアルミケーブルは、軽くて柔らかいので取り回しやすく、延線だけでなく盤への挿入も楽だった」との評価を受けている。また、

古河電工などが主催するらくらくアルミケーブル端末施工講習会の受講者が端末処理を担当したこともあって、作業がスムーズに終了したという。施工は延線作業を4人、端末処理を2人が担った。

JISでは、600ボルトエチレンケーブルの銅導体製品だけを規定している。今回アルミ導体ケーブルが官公庁案件で採用されたことで、建設現場での採用がより広がる可能性が出てきたといえる。古河電工などは、アルミ導体ケーブルのJIS化を目指し活動を始めている。

らくらくアルミケーブルは、導体にアルミニウム、絶縁被覆に柔軟性架橋ポリエチレンを採用した高機能型低圧CVケーブルで、軽くて柔らかく取り扱い性に優れ、既に100件超の建設現場で採用実績がある。2019年度の売上高は2億円弱。専用圧縮・圧着端子、端子台、端末処理の専用工具を含み、ケーブルからつなぎ込みまでを一貫したシステムとして24年度までに売上高20億円を目指す。

